

|                |   |           |                            |      |      |
|----------------|---|-----------|----------------------------|------|------|
| 科目名            | スポーツと医学   | 科目分類      | ■ 専門科目群 □ 総合科目群            |      |      |
|                |   |           | 経済学科                       | □ 必修 | ■ 選択 |
|                |   |           | 法律学科                       | □ 必修 | ■ 選択 |
|                |   |           | 国際観光学科                     | □ 必修 | ■ 選択 |
| 英文表記           | Sports and Medicine   | 開講年次      | ■ 1年 □ 2年 □ 3年 □ 4年        |      |      |
|                |   | 開講期間      | □ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中        |      |      |
| ふりがな           | みなと しょうさく、(せと あらた)  | 実務家教員担当科目 | ○                          | 修得単位 | 2単位  |
| 担当者名           | 湊 昭策、(瀬戸 新)   | 実施方法      | ■ 対面のみ □ 遠隔のみ<br>□ 対面・遠隔併用 |      |      |
| 授業のテーマ         | 様々なスポーツに対し、その見かたや楽しみ方を様々な角度から検討できるようにする   |           |                            |      |      |
| 到達目標           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・医学を通じてスポーツを考えることにより、各競技の特徴や選手の動きを楽しめるようになる</li> <li>・様々なスポーツに興味を示すことができるようになる</li> </ul>            |           |                            |      |      |
| 授業概要           | 講義をする者と受ける者が様々な考え方を述べ合いながら、物の考え方を様々な角度から検討する。   |           |                            |      |      |
| 授業計画           |   |           |                            |      |      |
| 第1回            | これから話すこと ～スポーツという言葉, スポーツと医学の関わり, ルールの必要性和決め方, 平等と公平～   |           |                            |      |      |
| 第2回            | スポーツ医学というジャンル ～新型コロナウイルス感染症が及ぼした影響～   |           |                            |      |      |
| 第3回            | スポーツ現場におけるメディカルサポートの必要性和実際  |           |                            |      |      |
| 第4回            | スポーツ生理学とバイオメカニクス ～栄養とトレーニング～  |           |                            |      |      |
| 第5回            | ドーピングについて   |           |                            |      |      |
| 第6回            | スポーツ医学の実践① ～筋肉と骨と関節～  |           |                            |      |      |
| 第7回            | スポーツ医学の実践② ～体幹筋の役割とトレーニング(実技含む)～  |           |                            |      |      |
| 第8回            | スポーツ医学の実践③ ～個人の特性と競技特性～   |           |                            |      |      |
| 第9回            | スポーツ医学の実践④ ～スポーツ外傷とスポーツ障害～  |           |                            |      |      |
| 第10回           | スポーツ傷害とリハビリテーション  |           |                            |      |      |
| 第11回           | 小児期と女性におけるスポーツの現状とスポーツ傷害  |           |                            |      |      |
| 第12回           | 障がい者とスポーツ   |           |                            |      |      |
| 第13回           | 東京オリンピックについて ～開催決定から現在までを考察する～  |           |                            |      |      |
| 第14回           | 秋田県におけるスポーツの現状  |           |                            |      |      |
| 第15回           | 総括  |           |                            |      |      |
| 第16回           | 定期試験  |           |                            |      |      |
| 授業時間外の学習       | スポーツを観戦したり、自らがプレーしたり、指導したりしながら、スポーツを分析する力を培う  |           |                            |      |      |
| 履修条件<br>受講のルール | スポーツに関心を持ち、自らが観たりプレーしたりしている者、またはこれから始めようという者  |           |                            |      |      |
| テキスト           | 使用しない   |           |                            |      |      |
| 参考文献・資料        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大修館書店編集部『観るまえに読む大修館スポーツルール2020』(大修館書店, 2020年)</li> <li>・東京書籍書籍編集部『スポーツ観戦手帳』(東京書籍, 2018年)</li> </ul> |           |                            |      |      |
| 成績評価の方法        | 筆記試験<br>※出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の金額を納めていない場合は、試験を受けることができません。  |           |                            |      |      |
| オフィスアワー        | 講義中のディスカッションまたは講義前後   |           |                            |      |      |

|                   |  |
|-------------------|--|
| 成績評価基準            | 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)   |
| 実務経験及び実務を活かした授業内容 | <p>湊</p> <p>私は山王整形外科医院で院長を務める整形外科医です。スポーツ関連の活動を紹介しますと、まず現在の釜石シーウェイブス RFC (ジャパンラグビートップチャレンジリーグ所属) の前身である新日鉄釜石ラグビー部のチームドクターとして13年間活動し、その間全国優勝を7連覇含め8回経験しました。また現在は、秋田ノーザンハピネッツ (B1リーグ所属) のチームドクターをチーム発足当時から務めております。さらに、秋田県フェンシング協会、秋田県カーリング協会の会長も兼任しており、秋田県体育協会では理事を18年、副会長を2年務めてまいりました。この間ミズノスポーツメントール賞、秋田県スポーツ功労賞、秋田県体育協会特別功績者表彰などを受賞しております。</p> <p>この講義を通じて皆さんには、スポーツ医学の基礎知識だけでなく、スポーツ現場の実際やスポーツに関係する組織の成り立ちについて、私の経験をもとにお話したいと思います。</p> <p>瀬戸</p> <p>私は山王整形外科医院に勤務する理学療法士です。勤務先でのリハビリテーション業務に加え、スポーツ現場でのトレーナー活動なども行っております。2012年から秋田大学医学部サッカー部(元東北2部所属)のトレーナーを務めるほか、県内の社会人フットサルチーム(東北2部所属)や高校サッカー部、全国ろうあ者体育大会サッカー競技本部、ねりんピック秋田2017サッカー競技本部、全国地域サッカーチャンピオンズリーグ2019(JFLカテゴリー)本部などでメディカルスタッフとしての活動をおこなってきました。また、現在は秋田県指定強化選手(中学生)のサポートスタッフや秋田県サッカー協会医学委員、秋田県理学療法士会スポーツ・パラスポーツ理学療法研究班班長などを兼任しております。</p> <p>講義を通じて、スポーツにおける関係職種の理解やリハビリテーションの意義や実際、トレーニングの実際、障がい者とスポーツなどについてお伝えできればと思います。</p> |
| 学生へのメッセージ         | 講義はただ聴くのではなく参加することが大切です。興味を持って参加し、考えることが重要です。  |